

新学長に藤野陽三氏が就任

新型コロナウイルス禍

令和2年度入学式は中止に 卒業式も限定式典

学位記などを手に 1785人が巣立ち



武蔵越生高と包括連携協定

城西大学
城西短期大学
坂戸キャンパス
東京紀尾井町キャンパス
<https://www.josai.ac.jp>

目次

- 02 新学長に
藤野陽三氏が就任
◆ 新生へのメッセージ ◆
- 03 学位記などを手に
1785人が巣立ち
2019年度スポーツ優秀団体・優秀選手表彰
2019年度永年勤続表彰
- 04 4大学による多職種
連携実践(IPW)演習
111人が「まちづくり
アドバイザー」に
◆ 火を使わない・簡単・メニュー！
2020就職セミナー ◆
- 05 武蔵越生高と包括連携協定
硬式野球場リニューアル安全祈願祭
女子サッカーチーム誕生へ
思い思いの音をこのピアノで紡ごう
- 06 [シリーズ]ゼミ登場
日本、世界の文化にかかわる
制度や政策を研究(土屋ゼミ)
「赤ピーツ」研究など「食品と健康」の
関連に取り組む(栄養教育学研究室)
- 07 [シリーズ]フォーカス
手漉し和紙職人 谷野裕子さん
付属川越高校ラグビー部
- 08 [シリーズ]先輩訪問
株式会社「木曾路」副社長 青野康徳さん
- 09 [シリーズ]図書館だより
- 10 [シリーズ]美術館通信
展覧会開催報告
開催時期はHPでご確認を
- 11 [エリア紹介]
坂戸市 四日市場の滝不動
鶴ヶ島市 今年は4年に1度の
「脚折雨乞」の年
東武線沿線情報 「川越特急」で
小江戸川越を満喫しませんか

題字：創立者 水田三喜男 先生

新型コロナウイルスの影響で、総合体育館での全学合同の式典が中止となった2019年度の卒業式。学部、学科単位に分かれて学位記を受けた卒業生たちは、学部棟前や正門前、水田三喜男記念館前、総合グラウンドなどキャンパスのあちこちで思い思いに集まり、卒業の喜びを分かち合うとともに別れを惜しんでいました。



新学長に 藤野陽三氏が就任

土木工学の橋梁分野で
日本を代表する研究者

2020
4.1

城西大学の学長に藤野陽三氏が4月1日、就任しました。白幡晶前学長の退任に伴うもので、任期は2年。2月27日の法人理事会で選任されました。

藤野新学長は東京大学名誉教授で、前任は横浜国立大学先端科学高等研究院上席特別教授でした。主に長大橋梁分野を専門にし、土木工学、特に橋梁に関する研究で日本を代表する研究者です。2007年に紫綬褒章を受章。昨年、日本学士院賞を受賞しました。



藤野 陽三 新学長

東京大学工学部土木工学科を卒業後、同大学院に進学。カナダのウォーターロー大学大学院で博士課程修了。東京大学地震研究所助手を振り出しに同工学部の助教授、教授。2013年に名誉教授。2014年から横浜国立大学に転じました。この間、文部科学省科学官、日本学術会議連携会員、日本学術振興会主任研究員、内閣府の政策参与・SIPプログラムディレクターなども歴任しました。

新生のみなさん、 ご入学おめでとうございます。 心よりお祝い申し上げます。

本来であれば、皆さんを城西大学坂戸キャンパスにお迎えして、2020年度入学式を挙行する予定でした。しかしながら、現在、世界中で蔓延している新型コロナウイルスの感染防止に対応するため、入学式を中止することにいたしました。さらに授業は5月11日(月)以降の再開を目指して検討しています。

入学式で皆さんやご家族に向けて学長からの祝辞として述べたいと思っていたことを、文章にてお伝えすることにします。

今から55年前、水田三喜男先生によって創設された城西大学の建学の精神は「学問による人間形成」です。学問と聞くと、皆さんからは遠く感じられるかもしれません。要するに「学ぶ」ということです。皆さんがこれまでの学校でやってきたことも「学ぶ」ことの一側面でしたが、知る、あるいは覚えるという面が強かったのではないかと思います。ここで新生の皆さんにお伝えしたい「学ぶ」「学問」とは、何かの「目的」をもって、自ら調べ、自ら考える、ということです。

「目的」も自分で決めるのです。好きなことでも、もちろんよいですし、今の世界で、日本で、あるいは身の周りで困っていることでもよいのです。皆さんは大学では専門を持ちま

すから、もちろん専門のこともよいのです。いかに「目的」を見つけ、どのようにして学ぶのか、学ぶプロセスの獲得を応援するのが大学での教育だと思っています。講義、ゼミナール、演習、実験、実習などだけではなく、スポーツなどの課外活動においても学ぶことがいろいろあるでしょう。学外での地域との交流、海外でのインターンシップでもいろいろな学びのテーマに皆さんは巡り合うことと思います。学ぶことの楽しさを経験することにより、人間は成長し、「人間形成」が図られるのです。

キャンパスに自由に来ていただける日が、一日でも早く来ることを祈っています。そのためにも教職員と学生が一体となって、城西大学関係者がウイルスに近づかない対応が求められます。安全なキャンパス空間をつくることにご協力ください。

私も4月から城西大学に加わった新入りです。城西大学のことをいろいろ知りたく思っています。自由が戻った坂戸キャンパスや東京紀尾井町キャンパスで私を見かけたときには、是非声をかけてください。皆さんが何を学んでいるのか、何を学びたいのか、教えてほしいのです。



席を離し代表者による卒業式典

卒業式 学位記などを手に 1785人が巣立ち

令和2年度
入学式は
中止に

2020
3.17

——卒業生総数8万7630人に

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、本学は新生1759人を迎えて4月4日に予定していた入学式を中止しました。また、3月17日に執り行われた卒業式は代表者などに限定した式典とし、卒業生には学部・学科単位で授与されました。入学式が中止になったのは、開学以来、初めてのことです。

令和元年度の学位記授与式(並びに卒業証書授与式、修了証書授与式)は3月17日に行われ、1785人が城西を巣立ちました。これで卒業生総数は8万7630人になりました。



清光ホールで行われた式典には、博士課程修了者のほか、修士課程や学部の代表者、理事長特別表彰受賞者らが出席しました。3月末で退任した白幡晶学長は告辞で「皆さんは今後、グローバルにつながる高齢社会の中で、今回の混乱が収束した後も、これまでに遭遇したことのない課題に常に直面する立場になります。大学時代の体験に大いに自信を持ち、大きく羽ばたいていただきたい」と、はなむけの言葉を贈りました。また、上原明理事長は「情報を収集して理解し、課題を解決するための仮説を立てて実行する。そこからさらに改良、改善して次の手を考えることが実社会におけるリテラシーの実践ではないかと思います」と語りかけました。

これに対し卒業生を代表して、女子駅伝部主将だった三ツ木桃香さん(現代政策学部)は「私たちが大学で仲間たちと共に励み、学んで

きた知識や経験、人との絆が私たちに勇気を与え、困難を乗り越える力となり、前へと進む力となると信じております」と答辞＝写真①。林実和さん(短期大学ビジネス総合学科)も「城西短期大学で培った知識や精神を活かして乗り越え、社会に貢献していきたいと思っております」と決意を述べました＝写真②。

式典の様子は当日から1週間、動画配信されました。

理事長特別表彰は次の通り。(敬称略)

【学業賞】松村享(経済学部)▷石井宥名(現代政策学部)▷藤田光騎(経営学部)▷石田啓一郎(理学部)▷酒井志歩(薬学部)▷浅利希伊(短期大学)

【スポーツ賞】川越広弥(陸上競技部)

2019年度 スポーツ優秀団体・優秀選手表彰

2019年度のスポーツ優秀団体・優秀選手表彰は次の通り。(敬称略)

【団体】男子ソフトボール部▷女子駅伝部▷陸上競技部▷女子ソフトボール部

【個人】荻久保寛也(経営学部4年)、菅原伊織(同3年)、菊地駿弥(同)、松尾鴻雅(同2年)＝以上、男子駅伝部▷三ツ木桃香(現代政策学部4年)、福嶋摩耶(経営学部1年)＝以上、女子駅伝部▷川越広弥(経営学部4年)、水久保漱至(同3年)、伊奈颯太(同1年)＝以上、陸上競技部▷園部花実(経営学部4年)、山北萌香(同)、松崎美南(同)、三浦万季(同)六本木悠(同)＝以上、女子ソフトボール部▷齊藤壮馬(経済学部4年)、原圭汰(現代政策学部4年)、町田幸正(経営学部4年)、渡辺暢(同)、小林凌也(同)、島田真尋(同2年)

2019年度 永年勤続表彰

2019年度の永年勤続表彰は次の通り。(敬称略)

【40年】山口博・理学部教授▷深田一司・理学部事務長▷加藤寛之・広報課長▷細井純枝・現代政策学部事務室

【30年】須永克佳・薬学部教授▷田中享・薬学部准教授▷榎本真久・学務課長

4大学による多職種連携実践(IPW)演習

—地域の暮らしを支える専門職育成へ—

2020
1.10

城西大学薬学部と埼玉県立大学保健医療学部、埼玉医科大学医学部、日本工業大学建築学部が1月10日、本学で多職種連携実践(IPW)演習を実施しました。4大学は「彩の国連携力育成プロジェクト(SAIPPE)」を組織し、地域住民の豊かな暮らしを支えるための専門職育成を目指した教育を行っています。今回の取り組みはその一環として行われました。



発表用プロダクトの作成

城西大学薬学部は3学科共通の選択科目の一部として「緩和医療学」を実施しており、この日の演習は緩和医療を受ける状態にある模擬患者さんに対する支援計画をチームごとに検討しました。

参加したのは4大学合わせて84人の学生と一般の模擬患者さん5人。初対面のチームメンバーで最初は不安そうでしたが、30分も経つとすっかり打ち解け、模擬患者さんの病歴や治療情報、さらにはインタビューを通じて得た患者さんの生活状況や思いなどをもとに患者さんに寄り添いながら支援する方策について活発に話し合いました。

参加したのは4大学合わせて84人の学生と一般の模擬患者さん5人。初対面のチームメンバーで最初は不安そうでしたが、30分も経つとすっかり打ち解け、模擬患者さんの病歴や治療情報、さらにはインタビューを通じて得た患者さんの生活状況や思いなどをもとに患者さんに寄り添いながら支援する方策について活発に話し合いました。

教員がファシリテーターとしてチームの活動をサポートし、模擬患者さんたちも迫真の演技で演習に協力しました。2時間という短い時間でしたが、楽しみながら有意義なチーム活動ができた様子うかがえました。

111人が「まちづくりアドバイザー」に

経営学部生が指定講座で学び資格取得

2020
1.20

昨年度、経営学部で「商業施設士補」(まちづくりアドバイザー)の資格を取得した学生は111人で、例年度から倍増しました。経営学部では指定の講座を学ぶことで商業施設士補の学科試験が免除になります。この制度を活用したもので、1月20日に登録証と登録カードが授与されました=写真。同資格を取得する学生はこれまで50人前後でした。

商業施設士補の資格は、商業施設の企画・設計・デザイン・監理等に関する知識を有していることを証するものです。楽しく安全な街や情報の行き交うにぎわいのある街、さらに地域の文化、歴史、風土など生かした豊かで質の高い街づくりを具体化することを求められる社会的に重要な資格です。商業施設士補の資格を取得すると、商業施設士の資格試験でも学科試験が免除となります。



「火を使わない・簡単」メニュー!

—栄養教育学研究室が公開—

2020
3.10~

「火を使わない・簡単・お母さんも喜ぶメニュー!」—医療栄養学科の栄養教育学研究室が、新型コロナウイルスの影響のため家で過ごしている小中学生に向け、火や包丁を使わない簡単レシピをホームページで公開しました。



一斉休校に入って2週目となった3月10日から始め、31日で終了。「炊飯器で作るチョコバナナケーキ」「ちぎりキャベツと豚肉の蒸し物」「キッチンばさみで作る簡単ご飯」=写真「学校給食を作ってみよう ウィンナーピラフ」など計18品目。この間、キッチンばさみの使い方も解説しました。

管理栄養士が監修したレシピを、人数分の分量から調理方法までわかりやすく説明。「お父さん、お母さんがお仕事から帰ってきた時に夕ご飯が出来ていたら、すごく喜んでくれると思います」などと呼びかけ、ホームページを見た子どもたちの質問や意見も紹介、好評を博しました。

2020就職セミナー 200社が参加

2020
1.24

2020就職セミナーが1月24日、東京都豊島区のホテルで開かれました。第1部では、文化放送キャリアパートナーズ就職情報研究所の平野恵子所長による講演「就職・採用活動を取り巻く環境変化と今後の予測」がありました。平野所長は就活ルールの変遷など新卒採用の環境変化や2021年卒採用の現状に触れたほか、今後の採用スケジュールの予測にも言及しました。最後に「大学4年間の過ごし方が学生を大きく成長させる」として、本学の建学の精神「学問による人間形成」に触れ、「それ自体が、キャリア教育といえるでしょう」と結びました。

第2部は懇親会に移り、小野元之理事長特別補佐、中禅寺弘規父母後援会長の挨拶に続き、草野素雄短期大学学長が乾杯の音頭を取りました。セミナーには約200社の企業や団体の採用担当者が参加、本学の教員と懇談しました=写真。

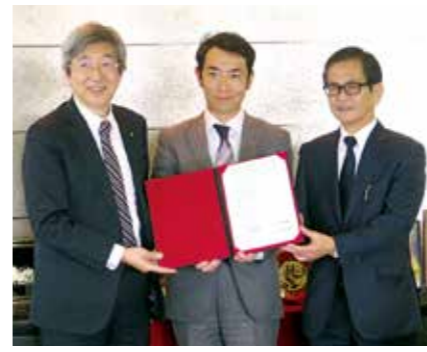


武蔵越生高と包括連携協定

2020
2.28

授業や講座で連携、スポーツ分野の交流も促進

本学は2月28日、武蔵越生高と包括連携協定を結びました。本学が高校と包括連携を結ぶのは初めて。授業や講座での連携だけでなく、スポーツ分野での交流促進も期待されます。



協定は、それぞれの教育内容の充実と生徒・学生の資質向上が目的。①本学の授業科目への聴講生の受け入れ②本学による公開講座及び出張講座の実施③本学スポーツクラブ等による部活動の支援と交流の促進④教育についての情報交換および交流⑤本学への指定校推薦に関する事項⑥本学施設・設備の利用に関すること—などです。

この日、清光会館で行われた調印式で、白幡晶学長、草野素雄短大学長と武蔵越生高の一川智宏校長が基本協定書を交わしました=写真。白幡学長は「本学の新しい建物やグラウンドをお使いいただくなど、色々な意味で教育連携を強められたら」と話し、一川校長は「これからタッグを組んで、地域に根差した教育を一緒に進めていきたい」と述べました。

硬式野球場リニューアル安全祈願祭

2020
3.8

「魂を込めて活動していく」(村上監督)

硬式野球場の人工芝化のリニューアル安全祈願祭が3月8日、同球場のブルペンに設けられたテント内で行われました。当初は全部員が参加する予定でしたが、新型コロナウイルス禍で捧颯人主将(経営学部4年)ら代表者のみが参加しました。工事は昨年11月から始まり、2月に終了。人工芝は神宮球場と同じ仕様になりました。



あいにくの雨の中、白幡晶学長ら大学代表者、硬式野球部関係者、設計・施工会社関係者約30人が参加。神事後、白幡学長は「(ウイルス禍の)こんな状況ですが、硬式野球部が新しい球場で練習してどんどん強くなって我々の大学に勢いをつけてもらう意味でも、安全を祈願する意味でも式を挙げるようになった次第です。イメージトレーニングで、神宮球場で試合をすることを前提にした練習ができることは非常に心強い」と挨拶。内山伸市OB会会長の祝辞に続いて、村上文敏監督は「この人工芝を起点に素晴らしい技術、人間の力を持った選手を育成してまいります。このグラウンドで野球を教えるのではなく、野球で教えるという覚悟で、魂を込めて活動していきたいと思っています」と決意を述べました=写真。

女子サッカーチーム誕生へ

「サッカー王国城西」を創りたい(サッカー部部长・佐々木准教授)

2021年度にサッカー部に女子チームが誕生します。少子化にもかかわらず、女子高校生のサッカー人口は増えています。毎年3月、全国の高校女子サッカーチームが参加して熊谷市で開かれている「選抜高校女子サッカー大会『めぬまカップ』in熊谷」(本年は新型コロナウイルス禍のため中止)を本学が支援していることもあり、大学でサッカーを続けたいという高校生選手の受け皿ができることとなります。今秋、サッカー場2面を擁してオープンする「JOSAIスポーツフィールド」も、チーム誕生を後押しする形となりました。

サッカー部部长の佐々木准教授は女子チーム創設の意義を「埼玉、北関東は特に高校女子サッカーが盛ん。大学に女子



JOSAIスポーツフィールド

サッカーができる環境をつくることで、女子サッカーの発展に貢献するとともに、本学の女子スポーツの活性化にもつながる」と説明します。サッカー部は今年度、東海林毅・前立正大学ヘッドコーチを監督に迎え新体制となりました。また、フットサルにも取り組みます。佐々木部長は「サッカーを通じた人間形成を部の理念として、男子サッカー、フットサル、そして女子サッカーと合わせて『サッカー王国城西』を創りたい」と話しています。

思い思いの音をこのピアノで紡ごう



—水田三喜男記念館の2階ロビーに設置

NHKのドキュメンタリー番組に「空港ピアノ・駅ピアノ」という番組があります。空港や駅に置かれた1台のピアノ。世界中から訪れた人々が、思い思いに音を紡いでいく。どんな曲をどんな思いで弾いたのか、定点カメラで見つめる番組です。

そんな番組にヒントを得て、水田三喜男記念館の2階ロビーにピアノが置かれています=写真。誰でも好きな時間にピアノに向かうことができます。

ゼミ登場

土屋ゼミ 土屋 正臣 准教授

日本、世界の文化にかかわる制度や政策を研究

現代政策学部の土屋正臣准教授が指導する「土屋ゼミ」は、日本と世界の文化にかかわる制度や政策について研究しています。広く「文化」をテーマとするゼミのため、学生が扱うテーマも多岐にわたります。昨年度、3年生17人が選んだテーマは、チケット不正転売防止と文化権、若者の読書離れと文化、秩父市におけるアニメ聖地巡礼など。身近な地域や社会環境にかかわる文化を入口として、豊かな社会のあり方を考えるという点では共通しているため、毎回授業の議論は白熱しているといえます。

5月と6月には秩父などに学外学習。夏休みには箱根で2泊3日のゼミ合宿を行い、研究発表会で議論を戦わせるとともに懇親会で親睦を図りました。また、夏休みには「1万字レポート」が課されました。「皆ブーブー文句を言っていたが、けっこうきっちりやってきました」と土屋准教授。

今年度の4年次は、文化政策にかかわる諸問題の解決に向けた提言能力といった汎用性技能、他者と共同してのゼミナール報告やコミュニケーション能力の向上を図ることを目標

にしています。土屋准教授は「将来どんな職業に就くにしても、学び続けるとか、自分で問題を発見しその解決に導くという能力が大事になります。そうした能力を身に付けてほしい」と期待を寄せています。

小江戸川越の文化に興味があって土屋ゼミを志望したというゼミ長の三木玲苑さんは「汎用性技能はゼミ形式での研究発表で、コミュニケーション能力の向上はゼミを円滑に運営することによって習得していきたい。これからもゼミ長としての自覚を持ち、何事にも率先して取り組みたい」と話しています。



箱根での合宿で。左端が土屋准教授

栄養教育学研究室 関口 祐介 助教

「赤ピーツ」研究など、食品と健康、の関連に取り組む

薬学部栄養学科の栄養教育学研究室は、健康食品のイメージと使用状況との関連、ハラル食品に関する研究、健康人を対象にした料理教室に取り組んでいますが、2018年からは赤ピーツを利用した健康メニューの開発にも力を入れています。

赤ピーツは、甘味のある砂糖大根の一種。硝酸塩や抗酸化作用のあるベタニンなど健康に良いとされる機能性成分が豊富に含まれており、「飲む輸血」とも言われています。海外ではアスリートが競技前に赤ピーツジュースを飲むことで競技成績を向上させようという取り組みが活発ですが、独特の風味があって日本ではあまりなじみのない食材となっています。昨年度、研究室の関口祐介助教と4年生5人は、そんな赤ピーツをもっと身近に親しんでもらおうと、レシピ作りと成分分析などの研究を行ってきました。

提案しているのは、ジュースだけでなく、パンケーキやクッキー、ポタージュなど。男子駅伝部ともコラボして競技前に赤ピーツのジュースを飲んでもらっています。大手料理レシピ投稿サイトの「クックパッド」にも40件を超えるレシピを投稿。ちなみにこれまで最高のアクセスがあったのは「ミラクルスープ☆赤ピーツのポタージュ(レシピID:5158

093) (ポタージュスープ)でした。

関口助教は「昔からの食文化も大事ですが、新しいものを採り入れていくことに躊躇しないでほしいと思います。いろんなものを採り入れて、相手にあったものを選択するという、そんな力を身に付けてもらいたい」と強調。別の研究室の所属ながら薬草園での赤ピーツの栽培で研究に協力し、3月の管理栄養士試験に合格した櫻井理穂さんは「赤ピーツの血圧抑制効果や認知症予防効果が医療費の削減、健康寿命の延伸が期待できます。赤ピーツの研究内容を現場に還元できたらうれしいです」と語っています。



男子駅伝部とのコラボは2018年から(左端が関口助教)

フォーカス

連携協定を結んでいる近隣自治体のキーパーソンと付属高校のトピックスを紹介するシリーズ「フォーカス」。今号は、ときがわ町在住の手漉き和紙職人の谷野裕子さん(61)と付属川越高等学校のラグビー部にフォーカスしました。

「本当にいい紙は、自然と人間が調和する」

ときがわ町・手漉き和紙職人 谷野裕子さん

谷野さんは30歳を過ぎて、東京の専門商社を辞め紙漉き和紙職人の道に入りました。古い給食センターを改装した工房で、ユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙の正会員として伝統を伝えるとともにホテルや住宅の内装など新たな分野も開拓。学校、博物館、美術館などのほか、他産地や海外での技術指導や講演もされています。



給食センターを改装した工房で

——和紙との出会いは?

「勤めていた会社の都合で住まいが埼玉県になり、仕事の合間のドライブで和紙に出会いました。工房でお豆腐のように積み上がった和紙を見て、本当にきれいだなと思いました。当時はバブルの頃で、会社勤めで疲れていたんでしょうね。里山の鄙な場所に癒されたんだと思います。それまでのデジタルの仕事とは真逆の職人

の仕事をしたいと咄嗟に思ったんです」

——和紙の魅力は何ですか。

「本当にいい紙というのは、自然と人間の調和といますか、手間暇かかって作る人にも使う人に無理がなく、地球にもやさしい。それが長持ちする。和紙の寿命は千年と言われていますが、自然に即した形で丁寧に作るのと長持ちするんだということが、10年、20年経って見えてきました」

——原料のコウゾの栽培もされています。

「遊休地の活用や地域活性化にもつながると育ててもらっています。地域に原料があるというのは心強いです。栽培は組織化し、もしもの時は他の産地と協力し合えるような関係も作っています」

——和紙のウェディングドレスを作られたことも。

「和紙を知ってもらい良い機会になればと依頼を受けました。伝統工芸技術は、作り続けないと残っていきません。昔の技術を今の人たちの生活の中に持ち込んでもらえるような形にちょっと工夫することが大事だと思います。新しい感性で昔の技術を伝える。そのためには職人も売れる場所、提案できる場所を見つけるべきだと思います」

工房「手漉き和紙 たにの」：ときがわ町桃木42-1 ☎0493-59-8441

challenge with smile ——今年の県新人戦でベスト8進出

付属川越高校ラグビー部

「challenge with smile」——。付属川越高校ラグビー部のモットーです。城西川越中・高のラグビー部OBの並木大典教諭がヘッドコーチを務めています。「ラグビーは激しく、きついスポーツですが、どんな状況でも笑顔で挑戦しようと、このスローガンでやっています。またラグビーは自己犠牲のスポーツでもあります。人のために行ったことが、自分に返ってくる。城西川越の校是でもある「報恩感謝」にも通じます」と話しています。

幼稚園の時からラグビーを続けているという中村隼人さんが主

将。「人数が多いので、チームの団結力が試されるスポーツ。皆が一つのものに

向かって頑張るところがラグビーの魅力」と語ります。ラグビー人口は減少傾向ですが、昨年のワールドカップでの日本チームの活躍で、部活体験も人気で入部希望者が増えているそうです。

並木教諭が中学校の監督になって11年、一昨年前からは高校も指導するようになりました。中学校は県内トップレベルにまで成長。昨年度の県大会で優勝した選手たちが入部して、部員は50人ほどになりました=写真。

今年1月の県の新人戦では創部初ベスト8に進出。7、8位決定



ラグビー部員たち

戦で川越高校に勝って7位となりました。並木教諭は今年の目標を「ベスト4」と挙げていますが、中村主将は「今年の花園予選は100回記念で埼玉から2チーム参加の可能性がります。決勝まで勝ち上がって“花園”に行ければ」と、さらに上を見据えて勉強とクラブに奮闘しています。

先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は、外食産業の株式会社「木曾路」副社長の青野康徳さん(68)を、本社のある愛知県名古屋市内に訪ねました。

浅く広くでもいい 多くの経験が 何かの時に役立つ

あおの やすのり
株式会社「木曾路」副社長 青野 康徳さん (1974年 経済学部卒)



——新型コロナウイルスの感染拡大でご苦労されていることと思います。

「マスク、手洗い、うがい、体温測定など基本的な感染予防の徹底は当然ですが、ご来店のお客様の席を離れてご案内するような取り組みもしています。現状ではテレビCMや企業訪問も自粛しております。経営理念で「日本一質の高い外食企業を目指そう」と取り組んでおります。ご来店のお客様に美味しい料理と気配りのサービスでご満足いただくために、この機会に基本の徹底の取り組みを行いたいと思っています。新しい商品販売として、4月から高級魚のクエ料理を、しゃぶしゃぶ・日本料理の木曾路全店で販売、提供させていただいています」

——学生時代で最も印象深い出来事は？

「昨年2月、卒業以来、初めて大学を訪ねました。昔の場所を訪ねながら懐かしい時間でした。硬式野球部に入って合宿所とグラウンドを往復する毎日でしたが、東毛呂駅前にあった自転車預かり所のお母さんに、本当に世話になりました。練習の帰りに前を通ると、声をかけていただき、お茶とお漬物をいただきました。愛媛の田舎者の私には、埼玉の母さん、のような存在でした。90歳を越えられて、ご健在のうちにお会いできてよかったです」

——外食産業に入られた経緯は？

「卒業後は警視庁に入る予定でしたが、郷里の義兄が始めた鯛とフグの養殖を手伝うことになりました。今で言う完全養殖ですが、当時は技術の確立もなく、生き物相手に気が抜けなく、朝早くから夜遅くの毎日でした。30歳のとき、一定の区切りをつけたいと名古屋に出てきました。店を持ちたいと今の会社に入り、5年ほど修業をする予定でした。予想より早く店長になったり、店舗出店の仕事をするようになったり、関西に赴任したりで会社に残ったわけです。当時の出店は土地探しから地権者との交渉と全部一人

でやらなければならない。何カ月か、年単位のケースもある。苦しいことの方が多かったですが、開店して、多くのお客様のご来店があったとき、報われた気持ちになりましたね。30店ほど手がけました。これまでで最大の転機は何といっても、30歳で田舎から出てきたときでしょうか」

——好きな言葉はありますか。

「(連合艦隊司令官だった)山本五十六の『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ』です。社員、パートさん、アルバイトさんが多い労働集約型の産業なので、人材育成が大きなポイントです。この言葉は、人を育てる上で基本だと思っています。個人的には、苦労も多かったので、『忍耐と継続』を意識してやってきました」

——後輩へのメッセージをいただけますか。

「時代が違うので、えらそうなことは言えませんが、人との関わり、その他を含めて経験が少ないかなと思います。浅く広くでもいいですから、多くの経験をしておくと、何かの時に役立ち、対応が出来る気がします。自分の自信になってくる気がします。最後にもお願いします。飲食業に興味のある方はぜひ当社に入社して活躍していただきたいと思います。男性、女性大歓迎です」

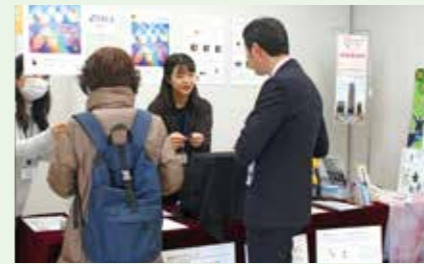
■株式会社「木曾路」

1950年創業。東京証券所、名古屋証券所1部上場。資本金100億円。しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」119店舗、居酒屋「素材屋」12店舗、焼き肉「じゃんじゃん亭」14店舗、鶏料理「とりかく」9店舗など計172店舗を展開。売上高は450億円。本社は、愛知県名古屋市中区白3-18-13

図書館だより

「図書館と県民のつどい埼玉2019」に出展しました

12月15日(日)、桶川市民ホール・さいたま文学館で開催された「図書館と県民のつどい埼玉2019」にディスプレイの仕組みと光の不思議:液晶の「液」ってなに?」をテーマに出展しました=写真。今回は理学部化学科准教授・橋本雅司先生にご協力いただき、液晶ディスプレイに関する資料をご覧いただくとともに、液晶に使われる技術に触れる簡単な実験を楽しんでいただきました。また、第21回図書館総合展で優秀賞を受賞したポスターセッション展示も紹介しました。



日高市立図書館主催「ビブリオバトル2019冬の陣」に城西大学学生が参加

図書館学生アドバイザーの寺谷充斗さん(理学部4年)が12月22日(日)、日高市立図書館で開催された「ビブリオバトル2019冬の陣」にバトラーとして参加しました=写真。チャンプ本は逃したものの、全国大学ビブリオバトル2018・2019関東地区決戦ほか、多くの大会を経験してきた寺谷さんは、堂々とした発表を聞かせてくれました。



坂戸市立城山中学校の生徒が図書館で職場体験をしました

坂戸市立城山中学校1年生2名が、1月22日(水)~24日(金)の3日間、図書館での職場体験学習を行いました。大

学図書館についての説明を受けた後、カウンターでの貸出、返却圖書の配架、受入圖書の装備、お勧め圖書のPOP作りなどを体験しました=写真。



「第11回地域相互協力図書館合同主催公開講座」を開催

1月26日(日)、毛呂山町立図書館で第11回地域相互協力図書館合同主催公開講座「生活習慣病と地域の特性見聞録:埼玉県民は大丈夫か?!」を開催し、37名の方にご参加いただきました=写真①。

本学理学部化学科の教授である石川満先生には理学博士の視点から、健康に影響を与える生

活習慣と地域の特性について丁寧に解説いただき=写真②、講演後には会場に

展示した関連本を借りていく方の姿も見受けられました。



展覧会開催報告

美術館では1月～2月に下記展覧会を開催しました。関連企画として作家によるギャラリートークも開催しました。

久保孝久風景画展

——自然を見つめて——
 (会期：I期=1月7日～25日)
 II期=2月4日～22日)

埼玉県在住の日本画家、久保孝久風景画展を開催いたしました。久保氏は1973年埼玉大学教育学部美術科を卒業後、日本画家の大野百樹に師事し、県展、日本美術院展などに出品し様々な賞を受賞しました。滝や高原の道とそこに残る雪、また海の波の美しさに心を打たれ作品にするなど、常に自然と向き合い、静けさの中にも僅かな時間の流れ、空気の変化をつぶさに捉えて表現された久保氏の風景画をご覧ください。高潔さとともに親しみを作品から感じていただきました。関連企画として、1月11日と2月15日に久保氏をお迎えし、ギャラリートークを開催。作品への想いや制作工程などを語っていただきました。



展覧会風景



ギャラリートークの様子

近隣中学校の職場体験

水田美術館では2016年度より、中学生の職場体験学習の受け入れを行っています。昨年度は、1月22、23日の2日間、坂戸市立城山中学校から1年生女子生徒1名を受け入れ、浮世絵版画の制作工程を学んだり、開館準備、お客様対応、展覧会案内発送業務、展示作業、ワークショップなど美術館での業務を実際に体験してもらったりしました。学習の趣旨である「多様な人々とのふれあいと学校では得られない経験を通して、社会性と自立心を養う」力を身に付け、本人の目標でもあった「仕事に責任を持って最後まで遂行する」も達成していただきました。

美術館では引き続き、こうした地域との連携や貢献活動に力を注いでまいります。



「久保孝久風景画展」見学、作家による作品解説を聞く



浮世絵版画の摺り体験

展示作業体験

モバイルミュージアム第2弾設置

大学近辺の文化財を身近に感じてもらうことを目的に、美術館所蔵の考古資料を学内各所に展示する「モバイルミュージアム」の第2弾が3月に21号館(薬学部棟)1階エントランスに設置されました。縄文土器と土師器を展示しています。



展示風景

エリア紹介

坂戸市

四日市場の滝不動

四日市場の滝不動は、多和目と四日市場の間の通称「清水のたな」と呼ばれる崖の中ほどにあるお堂の中に安置されています。お堂の建つところから見渡すと、広がる田畑とその先に城西大学の校舎も望めます。

滝不動の周りには、冷たい水がこんこんと湧き出ており、小川となって絶え間なく流れています。

堂内に安置されている仏像は不動明王の石像で「お不動様」とも呼ばれ、江戸時代の明和4(1767)年の作といわれています。右手に利剣という煩惱や悪魔を砕く智慧を表した鋭利な剣を持ち、左手には、絹索という人々を救い上げる縄を持っています。

堂内には鉄剣や花などが常時、供えられ、出世・進学祈願・安産祈願など靈験あらたかな仏として、今なお信仰の生きていることを示しています。

お不動様は、遥か200年以上前の江戸時代から、田畑で汗を流す人々の姿を見守ってきたのでしょう。



鶴ヶ島市

今年は4年に1度の「脚折雨乞」の年

脚折雨乞は、国選択無形民俗文化財、市指定無形文化財に指定される江戸時代から継承されてきた鶴ヶ島市の伝統行事です=写真。

脚折雨乞の特徴は、長さ36尺、重さ約3トある「龍蛇」を作って雨乞いを行うことです。龍蛇は、白鬚神社前で麦わらと孟宗竹、荒縄によって作られます。雨乞行事当日、出発前の入魂の儀により

「龍神」となります。この巨大な龍神を、300人の男たちが雷電池までの約2キロを担いで練り歩きます。雷電池に到着すると、龍神を池に入れて、「雨降れたんじゃく、ここに懸かれ黒雲」と必死に叫び雨乞いを行います。

雨乞行事は、池の中でクライマックスに達します。最後は龍神を一斉に解体。頭部に付けられた金色の宝珠を、我先にと競って奪い合う様は、非常に豪快で見る者も圧倒されます。

開催日時は、9月13日(日)午後1時に白鬚神社から雷電池へ向けて出発し、午後3時半に雷電池に入ります。ぜひご覧ください。



東武線沿線情報

「川越特急」で小江戸川越を満喫しませんか

東武東上線池袋駅から特急料金不要の「川越特急」=写真=で小江戸「川越」までは最速26分。

かつて新河岸川の舟運で栄えた川越は、江戸との文化、商業の交流が盛んに行われていま

た。今でも江戸の風情が残る蔵造りの町並みや菓子屋横丁などがあります。その他にスイーツはもちろん、芋料理など多くの飲食店が軒を連ねています。お出かけには便利でお得なきっぷ「小江戸川越クーポン」がおすすめです。

池袋から大人1020円

- ◇川越駅・川越市駅までの東武東上線往復鉄道運賃が割引
- ◇東武バス1日乗り放題(指定区間)
- ◇協賛店のうれしいサービスもあります

※感染症対策のため、イベント中止、延期、施設の臨時休館、営業時間変更等が生じる場合がございます。予めご了承ください。

東武鉄道お客さまセンター

☎03-5962-0102(8:30～19:00 年中無休/ただし年末年始を除く)



開催時期はHPでご確認を

新型コロナウイルス感染拡大が懸念されているため、4月以降の美術館での展覧会やイベントなどの開催は未定となっております。決まり次第、随時美術館ホームページでご案内しますのでご確認ください。

美術館ホームページのQRコード

